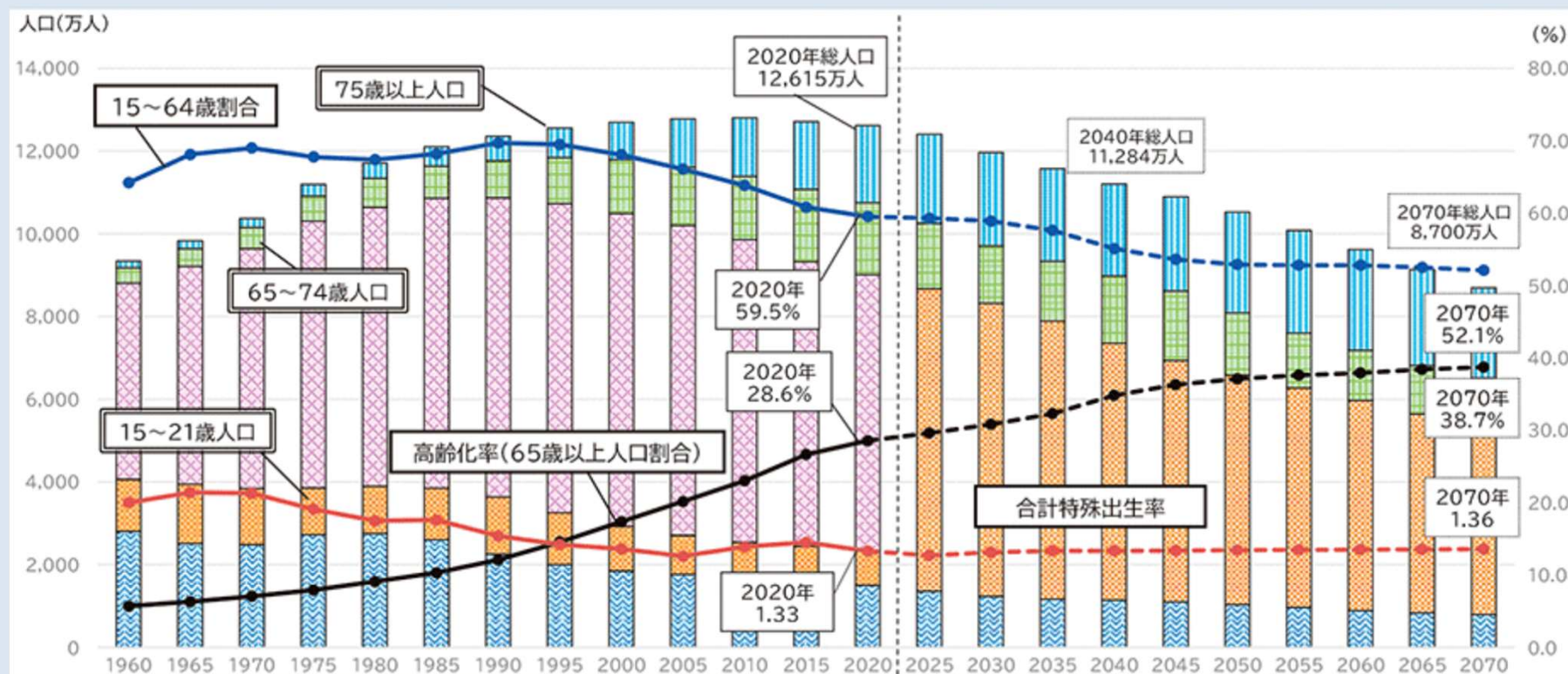


人手不足時代に備えよう

最近、ドライバー不足が注目されていますが、実は今後、すべての職種において人手不足が心配されます。日本の人口そのものが減っていくからです。なかでも15~64歳の「生産年齢人口」と呼ばれる、活発に働き消費する、“経済を回す世代”が激しく減少していきます。2020年から2040年にかけて、毎年70万人程度。これは徳島県の人口とほぼ一緒です。

人口減少社会においても、物流サービスは社会のインフラとして、変わらず供給されることが期待されています。一人当たりの作業生産性を大きく向上させないと実現できません。現場の作業、事務、すべて徹底的な効率化が必要です。その方法としてはデジタル化、ロボット等の活用があります。荷主を動かし、無駄を省くことも考えられます。ドライバーの拘束時間を短くするため、倉庫側で作業を代替するような“改善”も行われていますが限界があります。荷主も巻き込み、物流の形そのものを効率化していく取組みが必要です。理解できない荷主は「選ばれない荷主」になりかねないということです。



※資料:厚生労働白書

※ 湯浅コンサルティング作成